

製品名: INPP5J ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab12622

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	INPP5J
別名	INPP5J; PIB5PA; PIPP; Phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate 5-phosphatase A; Inositol polyphosphate 5-phosphatase J
遺伝子 ID	27124.0
SwissProt ID	Q15735
免疫原	INPP5J 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 850-930

背景

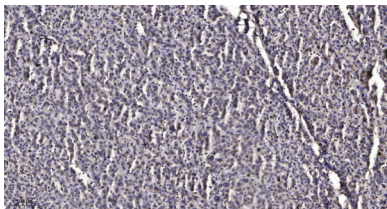
触媒活性: 1D-ミオイノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオイノシトール 1,3,4-トリスリン酸 + リン酸。触媒活性:

D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + H(2)O = ミオイノシトール 1,4-ビスリン酸 + リン酸。 ,ドメイン:5 つの Arg-Ser-Xaa-Ser-Xaa-Xaa (RSXSXX) モチーフは、 14-3-3 タンパク質の結合部位を構成する可能性があります。 ,機能:イノシトール 5-ホスファターゼは、イノシトール 1,4,5-トリスリン酸をイノシトール 1,4-ビスリン酸に変換します。また、in vitro でホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸をホスファチジルイノシトール 4-リン酸に、イノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸をイノシトール 1,3,4-トリスリン酸に変換します。膜ラッフルに存在するイノシトールおよびホスファチジルイノシトールポリリン酸結合タンパク質の機能調節に関与している可能性がある。 ,PTM:Ser/Thr 残基がリン酸化されている。 ,類似性:イノシトール-1,4,5-トリスリン酸 5-ホスファターゼ II 型ファミリーに属する。 ,細胞内局在:主に膜ラッフルに局在する。 ,触媒活性:1D-ミオ-イノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオ-イノシトール 1,3,4-トリスリン酸 + リン酸。 ,触媒活性:D-ミオ-イノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + H(2)O = ミオ-イノシトール 1,4-ビスリン酸 + リン酸。 ,ドメイン:5 Arg-Ser-Xaa-Ser-Xaa-Xaa (RSXSXX) モチーフは、 14-3-3 タンパク質の結合部位を構成する可能性がある。 ,機能: イノシトール 5-ホスファターゼは、イノシトール 1,4,5-トリスリン酸をイノシトール 1,4-ビスリン酸に変換する。また、in vitro でホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸をホスファチジルイノシトール 4-リン酸に、イノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸をイノシトール 1,3,4-トリスリン酸に変換する。膜ラッフルに存在するイノシトールおよびホスファチジルイノシトールポリリン酸結合タンパク質の機能の調節に関与している可能性がある。 ,PTM:Ser/Thr 残基がリン酸化される。 ,類似性:イノシトール-1,4,5-トリスリン酸 5-ホスファターゼ II 型ファミリーに属する。 ,細胞内局在:主に膜ラッフルに局在する。 ,

研究分野

イノシトールリン酸代謝;ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晚)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。